

# 成長につなぐ — 事例17ゴールズ&169ターゲット

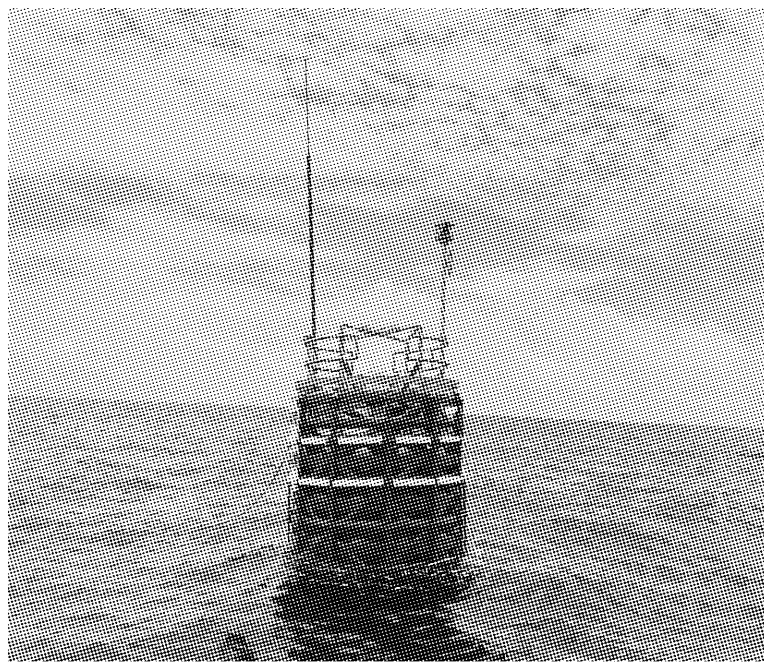
169

## 岡部

く、事業の一層のアピールに力を注ぐ。

建築金物メーカーの岡部は多角化の一環として豊かな海づくりの事業を展開している。海中で魚を集めるための魚礁や、海藻を育てるための藻場礁などを手がける。今後は磯焼け対策やブルーカーボンの需要を取り込むべく、

岡部が同事業に着手したのは1989年。紆余曲折を経て94年から海藻の種を構造物に取り付けた製品の研究を始め、研究にめどがついたことから04年、全国で藻場礁の販売を開始した。08年には建材メーカーから沈設型と浮上型の魚礁のビジネスを譲り受けた。「藻場礁と沈設型魚



岡部が手がける浮き魚礁

## 豊かな海づくり 魚礁・藻場礁で貢献

礁、浮き魚礁全て販売するのは国内では岡部のみ」と海洋事業部の前野浩平事業部長は胸を張る。

海洋事業部の売上高は会社全体の5%以下にとどまるが、着実に実績を積み重ねてきた。過去10年間の累計で浮き魚礁は約60カ所100基以上、沈設型魚礁では約70カ所600基以上、藻場礁においては約50カ所2000基を導入してきた。

海藻類が海中から姿を消す磯焼けの状態になると、海藻を食べるアワビやサザエが減り、漁業に深刻な影響を及ぼす。

磯焼けの原因は地球温暖化における海水温の上昇などであると推測されており、磯焼けを防ぐには海水温の上昇に強い海藻類を増やす必要がある。岡部では磯焼けになつた地域でわずかに残った海藻類を隠岐諸島の自社研究所（島根県海士町）で育てて増やし、藻場の構造物に海藻を埋め込み磯焼けの地域に戻している。

近年は海藻などが二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を吸収する「ブルーカーボン」が国内外で注目されている。海洋植物は光合成により海水に溶け込んだCO<sub>2</sub>を吸収する。その一部が海底に長期滞留される。滞留期間は数千年ともされ、新たなCO<sub>2</sub>対策として注目されている。岡部にも企業からブルーカーボンへの問い合わせが数多く寄せられており、各ニーズに応えつつ「地球環境に貢献していく」（前野事業部長）方針だ。



自社の藻場礁に繁茂している海藻類

長）方針だ。